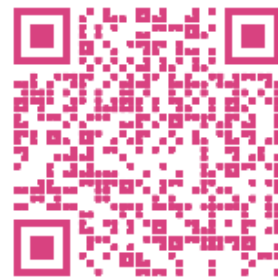


令和8年7月16日発行



亀戸中だより

亀中ホー
ムページ
クリック



本校教育目標

「思いやりの心もち、主体的に行動できる人間を育成する」

「探究」「敬愛」「挑戦」

「いつでも過程を大切に」

*7月6日全校朝礼生活指導主任講話より

生活指導主任 山本 拓

6月からサッカーのワールドカップが行われています。日本代表に関する活躍も日々テレビやネットの記事で掲載されています。この大会は4年に1度で、選手だけでなく、ファンも4年間一緒に応援という形で一緒に戦っています。日本代表は近年急激に実力を上げ、目標はベスト8、いや優勝を目指すという声もあるほどでした。実際に、AIによる大会前のデータだと、日本代表に関する記事やコメントの「約9割が賞賛する前向きな意見」だったそうです。



大会に勝ち進むと、相手は世界最強ともいわれる国の一つであるブラジル。ブラジルは5回も優勝したことがある国です。ですが、なんと日本がブラジル相手に先制点を取り、1対0で後半を迎えました。このまま勝利を期待したのですが、後半の途中で追いつかれ、なんと、試合時間「残り1分」というタイミングで逆転されてしまい、負けてしまいました。

試合に負けた後の日本代表に対する世間の声はこうなりました。「賞賛や労う声が4～5割」、「批判する声が5～6割」です。大会前は「史上最強!」「ベスト8はいける!」と、約9割もの人が大絶賛していました。いざ大会が始まり、「敗退」という結果が出た瞬間、今度は一転して5割以上の方が『戦術が悪い』『これだからダメだ』と批判の声に変わりました。ラスト1分で逆転された出来事がこれだけ評価を変えてしまったのです。

心理学でも証明されていますが、人は最後の印象で物事を判断するという傾向があるそうです。これを「ラストインプレッション」といいます。選手たちが一番悔しいはずなのに、昨日まで褒めていた人が、今日には手のひらを返して叩く。これが世間の厳しさです。誹謗中傷などになってしまうと本当によくないと思います。

今回のことに関して私の考えです。今回は「期待が大きかったからこそ、批判に変わった」のだと思います。そして、大会後も賞賛し続けた人、大

会後は批判に変わった人、どちらも4年間の過程は評価しているのだと思います。なぜなら、大会前は9割もが賞賛の声だったからです。

大会後も賞賛した人は、4年間の頑張りや成長に特に心を打たれた人たちで、「ブラジルなら仕方ない。」という冷静な見方もしているかもしれません。

大会後に批判に変わった人は、4年間の頑張りや成長を知っているからこそ、「ブラジル相手でも勝てたはずだ」と悔しい気持ちになった人たちなんだと思います。つまり、どちらの意見の人もあるのは「日本代表が4年間頑張ってきた過程」なのだと思います。

さて、学校生活に当てはめます。夏休みまで残り2週間、これまで頑張りを続けている人、本当に素晴らしいです。最後まで気を抜かず生活できたら本当に大きな成果になります。これまで頑張ってきたけど、最近は気が抜けてしまったり、行事やテストが終わってしまってからやる気が出ない人、先生達やクラスメイトは、あなた自身が頑張ってきた姿、過程を知っています。

だからこそ期待して応援してます。最後の頑張る姿がみたいです。

今まで頑張ってこれなかった人は、都合の良い考えかもしれませんが、「ラストインプレッション」の考えを大切にしてください。

終わりよければ全てよしとも言います。全員が日本代表の選手たちのように顔を上げて、1日1日を大切に、明日に向かっていきましょう。

